

就註法華經口伝(御義口伝)下

日蓮所立寿量品より開結^二經に至る

寿量品二十七箇の大事

第一 南無妙法蓮華經如来寿量品第十六の事 文句の九に云はく「如来とは十方三世の諸仏・二仏・三仏・本仏・迹^{しやくぶつ} 仏の通号なり。別して本地三仏の別号なり。寿量とは詮^{せんりょう} 量なり。十方三世諸仏の功德を詮量する故に如来寿量品と言ふ」と。

御義口伝に云はく、此の品の題目は日蓮が身に当たる大事なり。神力品の付嘱是なり。如来とは釈尊、総じては十方三世の諸仏なり、別しては本地無作の三身なり。今日蓮等の類の意は、総じては如来とは一切衆生なり、別しては日蓮が弟子檀那なり。されば無作の三身とは末法の法華經の行者なり。無作三身の宝号を南無妙法蓮華經と云ふなり。寿量品の事の三大事とは是なり。六即^{はいりゅう}の配立の時は此の品の如来は理即の凡夫なり。頭に南無妙法蓮華經を頂戴^{ちやうだい}し奉る時名字即なり。其の故は始めて聞く所の題目なるが故なり。聞き奉りて修行するは觀行即なり。此の觀行即とは事の一念三千の本尊を觀ずるなり。さて惑障^{わくしょう}を伏するを相似即と云ふなり。化他に出づるを分真即^{ぶんしんそく}と云ふなり。無作の三身の仏なりと究竟^{くきやう}したるを究竟即の仏とは云ふなり。総じて伏惑を以て寿量品の極^{ごく}とせず、唯凡夫の当体本有^{ほんぬ}の俛^まを此の品の極理と心得べきなり。無作の三身の所作は何物ぞと云ふ時、南無妙法蓮華經なり云云。

第二 如来秘密神通之力の事

御義口伝に云はく、無作三身の依文なり。此の文に於て重々の相伝^{これ}之有り。神通之力とは我等衆生の作^さ々^さと振る舞ふ処を神通と云ふなり。獄卒の罪人を呵責^{かしゃく}する音も皆神通之力なり。生住異滅森羅三千の当体悉く神通之力の体なり。今日蓮等の類の意は、即身成仏と開覚するを如来秘密神通之力とは云ふなり。成仏するより外の神通と秘密とは之^{これ}無きなり。此の無作の三身をば一字を以て得たり。所謂信の一字なり。仍つて經に云はく「我等当信受仏語」と。信受の二字に意を留むべきなり。

第三 我実成仏已来 無量無辺等の事

御義口伝に云はく、我とは釈尊久遠実成道なりと云ふ事を説かれたり。然りと雖も当品の意は、我とは法界の衆生なり。十界^こ已^こ々を指して我と云ふなり。実とは無作の三身の仏なりと定めたり。此を実と云ふなり。成とは能成所成^{のうじやうしよじやう}なり。或は開く義なり。法界無作の三身の仏なりと開きたり。仏とは是を覚知するを云ふなり、已とは過去なり、来とは未来なり。已来の言の中に現在是有るなり。我実と成けたる仏にして已も来も無

量なり、無辺なり。百界千如一念三千と説かれたり。百千と云ふ二字は、百は百界、千は千如なり。是即ち事の一念三千なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は寿量品の本主なり。総じては迹化の菩薩此の品に手をつけ綺いろうべきに非ざる者なり。彼は迹しゃくひようほんり表本裏、此は本面迹裏なり。然りと雖も而も当品は末法の要法に非ざるか。其の故は此の品は在世の脱益なり。題目の五字計りばか当今の下種なり。然れば在世は脱益、滅後は下種なり。仍って下種を以て末法の詮せんと為す云云。

第四 如来如実知見 三界之相 無有生死の事

御義口伝に云はく、如来とは三界の衆生なり。此の衆生寿量品の眼を開けて見れば十界本有と実の如く知見せり。三界之相とは生老病死なり。本有の生老病死と見れば無有生死なり。生死無ければ退出も無し。唯生死無きに非ざるなり。生死を見て厭離おんりするを迷ひと云ひ始覚と云ふなり。さて本有の生死と知見するを悟りと云ひ本覚と云ふなり。今日蓮等の類たくい南無妙法蓮華經と唱へ奉る時、本有の生死本有の退出と開覚するなり。又云はく、無も有も生も死も若退も若出も在世も滅後も、悉く皆本有常住の振る舞ひなり。無とは法界同時に妙法蓮華經の振る舞ひより外は無きなり。有とは地獄は地獄の有りまの俛、十界本有の妙法の全体なり。生とは妙法の生なれば随縁なり。死とは寿量の死なれば法界同時に真如なり。若退の故に滅後なり。若出の故に在世なり。されば無死退滅むしたいめつは空なり、有生出在は仮なり、如来如実うしゅうしゆつざいは中道なり、無死退滅は無作の報身なり、有生出在は無作の応身なり、如来如実は無作の法身なり。此の三身我が一身なり。一身即三身みょういひ名みょういみつ為秘とは是なり。三身即一身名みょういみつ為密も此の意なり。然れば無作の三身当体蓮華仏とは日蓮が弟子檀那等なり。南無妙法蓮華經の宝号を持ち奉る故なり云云。

第五 若仏久住於世 薄徳之人 不種善根 貧窮下賤 貪著五欲

入於憶想 妄見網中の事

御義口伝に云はく、此の經文は仏世に久住し玉はゞ薄徳の人は善根を殖ううるべからず。然る間妄見網中もうけんもうちゅうと説かれたり。所詮此の薄徳とは在世もに漏れたる衆生、今滅後日本国に生まれたり。所謂念仏・禅・真言等の謗法なり。不種善根とは、善根は題目なり、不種は未だ持たざる者なり。憶想とは捨閉閣抛第三の劣等、此くの如き憶想なり。妄とは權教妄語の經教なり。見は邪見なり。法華最第一の一を第三と見るが邪見なり。網中もうちゅうとは謗法不信の家なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は、かゝる妄見の網中を離るゝ者なり云云。

第六 飲他毒藥 藥發悶乱 宛轉于地の事

御義口伝に云はく、他とは念仏・禅・真言の謗法の比丘なり。毒藥とは權教方便なり。法華の良藥ろうやくに非ず、故に悶乱もんらんするなり。悶とは息たゆるなり。寿量品の命なきが故に悶乱もんするなり。宛轉于地とは阿鼻地獄へ入るなり云云。諸子飲毒の事は、釈に云はく「邪

師の法を信受するを名づけて飲毒なと為す」と。諸子とは謗法なり、飲毒おんどくとは弥陀・大日等の権法なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは毒を飲まざるなり云云。

第七 或失本心 或不失者の事

御義口伝に云はく、失本心とは謗法なり。本心とは下種なり、不失とは法華の行者なり、失とは本有る物を失ふ事なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは本心を失はざるなり。

第八 擣筵和合 与子令服の事

御義口伝に云はく、此の經文は空仮中の三諦かいじょうえ、戒定慧の三学、色香美味の良薬なり。擣は空諦なり、筵は仮諦なり、和合は中道なり、与は授与なり、子とは法華の行者なり、服すると云ふは受持の義なり。是を此大良薬色香美味皆悉具足と説かれたり。皆悉かいしつの二字は万行万善諸波羅蜜を具足したる大良薬たる南無妙法蓮華經なり。色香等とは一色一香無非中道にして草木成仏なり。されば題目の五字に一法として具足せずと云ふ事なし。若し服する者は速除苦惱そくじょくのうなり。されば妙法の大良薬を服する者は貪瞋癡の三毒の煩惱の病患びょうげんを除くなり。法華の行者南無妙法蓮華經と唱へ奉る者、謗法の供養を受けざるは貪欲の病を除くなり。法華の行者罵詈せらるゝも忍辱にんにくを行ずるは瞋恚しんにの病を除くなり。法華經の行者是人於仏道決定無有疑ぜにんのぶつどうけつじょうむうぎと成仏を知るは愚癡ぐちの煩惱を治するなり。されば大良薬は末法の成仏の甘露かんろなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは大良薬の本主なり。

第九 毒氣深入 失本心故の事

御義口伝に云はく、毒氣深入どっけじんにゆうとは権教謗法の執情しゅうじょう深く入りたる者なり。之に依つて法華の大良薬を信受せざるなり。服せしむと雖も吐き出だすは、而謂不美とてむまからずと云ふ者なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は而謂不美の者に非ざるなり。

第十 是好良薬 今留在此 汝可取服 勿憂不差の事

御義口伝に云はく、是好良薬とは、或は經教、或は舍利なり。さて末法にては南無妙法蓮華經なり。是とは即ち五重玄義なり。好とは三世の諸仏の好み物このは題目の五字なり、今留とは末法なり、此とは一閻浮提の中には日本国なり、汝とは末法の一切衆生なり、取とは法華經を受持する時の儀式なり、服とは唱へ奉る事なり。服するにより無作の三身なり、始成正覚びょうげんいの病患差ゆるなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは是なり。

第十一 自我得仏來の事

御義口伝に云はく、一句三身の習ならひの文と云ふなり。自とは九界なり、我とは仏界なり、此の十界は本有無作の三身にして來たる仏なりと云へり。自も我も得たる仏來たれ

り。十界本有の明文なり。我は法身、仏は報身、来は応身なり。此の三身無始無終の古
仏にして自得なり。無上宝珠不求自得之を思ふべし。然れば則ち顕本遠寿の説は永く
諸教に絶えたり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは自我得仏来の行者なり云云。

第十二 為度衆生故 方便現涅槃の事

御義口伝に云はく、涅槃經は法華經より劣りたりと云ふ經文なり。既に方便と説かれ
たり云云。

第十三 常住此説法の事

御義口伝に云はく、常住とは法華經の行者の住处なり、此とは娑婆世界なり、山谷曠野
を指して此とは説き玉ふ。説法とは一切衆生の語言の音声、本有の自受用智の説法な
り、末法に入つては説法とは南無妙法蓮華經云云。今日蓮等の類の説法是なり。

第十四 時我及衆僧 俱出靈鷲山の事

御義口伝に云はく、靈山一会儼然未散の文なり。時とは感応末法の時なり、我とは釈
尊、及とは菩薩、聖衆を衆僧と説かれたり。俱とは十界なり、靈鷲山とは寂光土なり。
時に我も及も衆僧も俱に靈鷲山に出づるなり。秘すべし秘すべし。仍つて事の一念三千
の明文なり。御本尊は此の文を顕はし出だし玉ふなり。されば俱とは不変真如の理なり、
出とは隨縁真如の智なり。俱とは一念なり、出とは三千なり云云。又云はく、時とは本
時娑婆世界の時なり。下は十界宛然の曼陀羅を顕はず文なり。其の故は時とは末法第五
時の時なり。我とは釈尊、及は菩薩、衆僧は二乗、俱とは六道なり。出とは靈山淨土に
列出するなり。靈山とは御本尊並びに今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者の住
処を説くなり云云。

第十五 衆生見劫尽○而衆見燒尽の事

御義口伝に云はく、本門寿量の一念三千を頌する文なり。大火所燒時とは実義には
煩惱の大火なり。我此土安穩とは国土世間なり。衆生所遊樂とは衆生世間なり。宝樹多
華菓とは五陰世間なり。是即ち一念三千を分明に説かれたり。又云はく、上件の文は
十界なり。大火とは地獄界なり、天鼓とは畜生界なり、人と天とは人天の二界なり、天
と人と常に充滿するなり。雨曼陀羅華とは声聞界なり、園林とは縁覺界なり、菩薩界と
は及の一字なり、仏界とは散仏なり、修羅餓鬼界とは憂怖諸苦惱如是悉充滿の句に撰
するなり。此等を是諸罪衆生と説かれたり。然りと雖も此の寿量品の説顯はれては、則
皆見我身とて一念三千なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は是なり云云。

第十六 我亦為世父の事

御義口伝に云はく、我とは釈尊、一切衆生の父なり。主師親に於て仏に約し經に約
す。仏に約すとは、迹門の仏の三徳は今此三界の文是なり。本門の仏の主師親の三徳は、
主の徳は我此土安穩の文なり。師の徳は常説法教化の文なり。親の徳とは我亦為世父の

文是なり。妙樂大師は寿量品の文を知らざる者は不知恩の畜生と釈し玉へり。經に約すれば諸經中王は主の徳なり、能救一切衆生は師の徳なり、又如大梵天王一切衆生之父の文は父の徳なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は一切衆生の父なり。無間地獄の苦を救ふ故なり云云。涅槃經に云はく「一切衆生の異の苦を受くるは悉く是如来一人の苦なり」云云。日蓮が云はく、一切衆生の異の苦を受くるは悉く是日蓮一人の苦なるべし。

第十七 放逸著五欲 墮於惡道中の事

御義口伝に云はく、放逸著とは謗法の名なり、入阿鼻獄疑ひ無き者なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は此の經文を免離せり云云。

第十八 行道不行道の事

御義口伝に云はく、十界の衆生の事を説くなり。行道は四聖、不行道は六道なり。又云はく、行道は修羅人天、不行道は三惡道なり。所詮末法に入つては法華の行者は行道なり、謗法の者は不行道なり、道とは法華經なり。天台の云はく「仏道とは別して今の經を指す」と。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは行道なり、唱へざるは不行道なり云云。

第十九 每自作是念の事

御義口伝に云はく、每とは三世なり、自とは別しては釈尊、総じては十界なり、是念とは無作本有の南無妙法蓮華經の一念なり、作とは此の作は有作の作に非ず無作本有の作なり云云。広く十界本有に約して云はゞ、自とは万法己々の当体なり、是念とは地獄の呵責の音、其の外一切衆生の念々皆自受用報身の智なり。是を念とは云ふなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る念は大慈悲の念なり云云。

第二十 得入無上道等の事

御義口伝に云はく、無上道とは寿量品の無作の三身なり。此の外に成就仏身之無し。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は成就仏身疑ひ無きなり云云。

第二十一 自我偈の事

御義口伝に云はく、自とは九界なり、我とは仏身なり、偈とはことはるなり、本有とことはりたる偈頌なり。深く之を案ずべし。偈様とは南無妙法蓮華經なり云云。

第二十二 自我偈始終の事

御義口伝に云はく、自とは始めなり、速成就仏身の身とは終はりなり、始終自身なり。中の文字は受用なり。仍つて自我偈は自受用身なり。法界を自身と開き、法界自受用身なれば自我偈に非ずと云ふ事無し。自受用身とは一念三千なり。伝教の云はく、一念三千即自受用身、自受用身とは尊形を出でたる仏と。出尊形仏とは無作の三身と云ふ事なり云云。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は是なり云云。

第廿三 久遠の事

御義口伝に云はく、此の品の所詮は久遠くおんじつじょう実成なり。久遠とははたらかさず、つくろはず、もとのまま俣と云ふ義なり。無作の三身なれば初めて成ぜず、是はたら動かさざるなり。三十二相八十種好を具足せず、是つくろ繕はざるなり。本有常住の仏なれば本の俣なり。是を久遠と云ふなり。久遠とは南無妙法蓮華経なり。実成まことにひらけたり、無作と開けたるなり云云。

第廿四 此の寿量品の所化の国土と修行との事

御義口伝に云はく、当品流布の国土とは日本国なり、総じては南閻浮提なんえんぶだいなり、所化とは日本国の一切衆生なり、修行とは無む疑ぎ曰信わっしんの信心の事なり、授与の人とは本化地涌の菩薩なり云云。

第廿五 建立御本尊等の事

御義口伝に云はく、此の本尊の依文とは如来秘密神通之力の文なり。戒定慧の三学、寿量品の事の三大秘法これ是なり。日蓮たし慥かに靈山に於て面授口決めんじゆくけつせしなり。本尊とは法華経の行者の一身の当体なり云云。

第廿六 寿量品の対告衆の事

御義口伝に云はく、経文は弥勒菩薩みらくぼさつなり。然りと雖も滅後を本とする故に日本国の一切衆生なり。中にも日蓮等の類南無妙法蓮華経と唱へ奉る者是なり。弥勒とは末法法華の行者の事なり。弥勒をば慈じ氏しと云ふ、法華の行者を指すなり。章安大師の云はく「彼が為に悪を除くは即ち是彼が親なり」と。是あに豈弥勒菩薩に非ずや云云。

第廿七 無作三身の事 種子尊形三摩耶

御義口伝に云はく、尊形そんぎょうとは十界本有の形像ぎょうぞうなり、三摩耶さんまやとは十界所持の物なり、種子とは信の一字なり。所謂南無妙法蓮華経是なり。種とは妙法なり、子とは三世の諸仏なり、広くは十界の衆生なり、尊形とは本有の体を改めざるを云ふなり。三摩耶とは合掌なり、秘すべし云云。